

青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議
第68号
令和2年12月21日



=第42回少年の主張福島県大会=

9月25日（金）会津美里町「じげんホール」において、会津美里町の御支援のもと、第42回少年の主張福島県大会を開催しました。

新型コロナウイルス感染防止の観点から参加者を関係者に限定しましたが、命の大切さ、心豊かに生きること、差別問題、正義、あたりまえの大切さ、感謝、環境問題などについて中学生の思いや願いが、巧みに表現され、心に響く爽やかさあふれる大会となりました。

最優秀賞の二本松市立安達中学校3年の菊地瑠奈さんは、北海道・東北ブロック大会を経て全国大会に出場し奨励賞に輝きました。コロナの影響で全国大会はVTRによる審査となり、実際の発表がなかったことは残念でした。



【発表する菊地瑠奈さん（安達中学校3年）】

〈県大会応募概況〉

参加市町村数は29で昨年度より2割ほど減少しました。参加校は62校減り、115校。参加者数も3,474名減の11,097名でした。

応募が軒並み減少する地域の多い中、昨年度の1.2倍、あるいは1.8倍も増加したところがありました。県北地区では16倍の大幅増加がみられた市町村もありました。

いずれにしても、臨時休校等で学校の授業日数の確保に努められている中での応募ということで、生徒たちはもとより学校関係者並びに保護者の皆様に心から感謝と敬意を表したいと存じます。





【参加者の作品】

「世界に一つだけの器を」 ～陶芸教室～



【器づくりを説明する宗像利訓先生】

県内各地から抽選で選ばれた20名の小学生が参加して7月25日（土）、夏の思い出のづくり体験事業「陶芸教室」を開催しました。

作業に先立ち、講師の宗像利訓氏から陶芸の基礎や作業のポイントを御指導していただき、早速、子どもたちは思い思いにイメージした器づくりに取り組みました。

当初は戸惑いもみられましたが、そこは現代っ子、あっという間にその場の雰囲気になじみ、ものづくりに集中していました。宗像先生やスタッフの助言を生かしながら、作業に励みました。

ほぼ、全員が予定時間内に仕上がり、出来た作品をみて満足げでした。講座修了後、宗像先生から「大変よい作品ができました。器づくりに対する姿勢もよく、素晴らしい子どもたちです。」と感想をいただきました。



【宗像利訓先生の助言を受ける参加者】

☆☆第43回福島県青少年健全育成推進大会☆☆

11月19日（木）、とうほう・みんなの文化センター小ホールにおいて、120名余りの参加者のもと、第43回福島県青少年健全育成推進大会を実施しました。新型コロナウイルス感染防止により参加人数を、例年の3分の1程度まで絞り込んでの開催となりました。

席上、青少年の健全育成に多大な貢献が認められた団体並びに個人の皆様に対して表彰状の授与を行うとともに、令和2年度「家庭の日」作品コンクール最優秀者の作文発表があり、児童生徒の心温まる素晴らしい朗読に、参加者が感動の余韻に浸る姿が見られました。

最後に須賀川市明るいまちづくりの会連絡協議会の大内康司会長による大会宣言で幕を閉じました。

福島県知事賞は11件。【青少年団体の部】2件、【青少年育成団体の部】1件、【青少年育成者の部】8件。

福島県青少年育成県民会議会長賞の受賞者は計38件。【青少年指導の部】23件、【青少年団体・青少年育成団体の部】4件、【青少年育成市町村民会議の部】2件、【青少年健全育成功労者の部】9件。



【「大会宣言案」を読み上げる大内康司様】

「大会宣言」

「夢・希望・笑顔に満ちた“新生ふくしま”の創造を目指し、本県の次代を担う青少年が、意欲と創造力にあふれ、いきいきと輝き、心身ともに健やかに成長することは、県民すべての願いです。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症対策に伴う新しい生活様式が求められるなど、社会環境が大きく変化する中、青少年を巡る問題は一層複雑で多岐にわたり、依然として憂慮すべき状況にあります。

さらに、今もなお東日本大震災や原子力発電所の事故による様々な影響を受けている本県において、復興と更なる発展のため、次代を担う青少年の健全な育成は、ますますその重要性を増しております。

このような状況にあって、私たち大人は、自らの生き方や社会のあり方を見直しながら、家庭・学校・地域社会が一体となり「大人が変われば、子どもも変わる」県民運動等を一層推進するなど、県民総ぐるみで明日の福島県を担う青少年の健全育成に取り組んでいかなければなりません。

このため、ここに決意を新たにして県民の総意を結集し、次の諸活動を推進することを宣言します。

- 1 青少年が震災からの復興と更なる発展を担う力となっていけるよう、地域のきずなを強め、地域全体で青少年を守り、健やかにたくましく育てる気運を醸成する。
- 2 青少年育成の基盤である家庭や地域の大人が果たす役割及び責任を再認識し、望ましい環境づくりに努める。
- 3 青少年の社会参加活動を奨励し、自主的な活動を支援するとともに、その活動の場や機会の提供に努める。
- 4 インターネットの利用環境の整備など、青少年を取り巻く有害環境への適切な対応や非行等の防止活動に努める。
- 5 関係機関・団体及び地域社会が相互に連携・協力し、「子ども・若者育成支援」の一層の推進に努める。

令和2年11月19日

第43回福島県青少年健全育成推進大会

～令和2年度「家庭の日」作品コンクール～

5月中旬から9月初旬にかけ、小学生、中学生及び高校生を対象に「家庭の日」作文、絵画・ポスター作品を募集したところ、作文部門1,581点、絵画部門196点、ポスター部門66点の応募がありました。

本年度は、昨年度に比べて小学生の作文の応募が減少しました。これは、コロナ禍のもと臨時休校、夏休みの短縮等が影響したものと考えられます。その一方、小学校の絵画は増加しました。また、昨年度はなかった高校生のポスター応募がありました。

作文の部は第三次審査会、絵画・ポスターの部は第二次審査会を実施し、入賞作品を選考しました。作文、絵画・ポスター合わせて、最優秀賞9点、優秀賞35点、優良賞87点を決定しました。

最優秀賞受賞者には、11月19日に開催の「令和2年度福島県青少年健全育成推進大会」の席上で福島県副知事から賞状と副賞が授与されました。

なお、最優秀賞の作文・絵画・ポスター並びに優秀賞の絵画・ポスター作品は12月21日（月）～1月8日（金）の期間、福島県庁2階西庁舎連絡通路に展示します。



【【ポスターの部】 関根るなさん（学校法人石川高等学校3年）】

＜令和2年度「家庭の日」作品 「最優秀賞」受賞者一覧＞

作文の部			
氏名	学年	学校名	題名
石森 悠慎	小1	玉川村立須釜小学校	おうちでたいむすりっぴ
鈴木 天土	小4	いわき市立平第五小学校	おじいちゃんおばあちゃんといっしょ
鈴木 康太	小5	いわき市立平第五小学校	最後のプレゼント
笹山 千尋	中1	郡山市立郡山第二中学校	じいちゃんが残してくれたもの

絵画の部			
氏名	学年	学校名	題名
森 穂華	小1	いわき市立高坂小学校	今日は家族でカレーパーティー
谷田部 佳歩	小4	いわき市立泉北小学校	スイカでえがお
吉村 叶翔	小5	磐梯町立磐梯第一小学校	いつまでも家族だよ

ポスターの部			
氏名	学年	学校名	題名
雪下 しずく	中3	会津若松市立第一中学校	家族でつくる日 家庭の日
関根 るな	高3	学校法人石川高等学校	育もう家族の絆

ご案内

第4回ふくしま青少年育成セミナー

昨年度の参加者のみなさんのご要望に答え、好評を博した山本佳子先生の講座を開催します。

人生を生きやすくするための良好な人と人との関係について考えます。
 幼児から高齢者まで、障がいのあるなしにかかわらず共に生きる豊かな社会に向け、私たちが為し得ることを考える絶好の機会です。

- 日時 令和3年2月13日（土）午後1時30分～午後3時15分
- 場所 福島県青少年会館大研修室（2階）
- 演題 「みんなちがって みんないいⅡ」～障がいと個性を考える～
- 講師 医療創生大学心理学部 教授 山本 佳子 氏

※申込は、電話、またはFAX、あるいはメールでもできます。詳しくは福島県青少年会館のホームページをご覧ください。

【連絡・問い合わせ先】

住所 〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5(福島県青少年会館内)

TEL 024-546-0002 FAX 024-546-8311

Mail f-youth@io.ocn.ne.jp HP アドレス <http://www.fukushima-youth.com/>